

第1回 尼崎市都市計画審議会公園緑地分科会専門部会 要旨

○配布資料

- 資料1 (仮称) 次期 緑の基本計画の骨格 (フレーム) 検討
- 資料2 (仮称) 次期 緑の基本計画の骨子 (たたき案)
- 資料3 施策体系一覧表

(質疑等の要旨)

1) 次期計画の骨格 (フレーム)

- 委員 基本方針で「つなぐ」を用いているが「何かをつなぐ」事も大事だが「知っている」「やっている」等「Do」が入るのも良い。進行形で私がやるという事を示す。基本理念「みんなでつなぐあまがさきのみどり」がサブタイトルに決まっているのか。
- 事務局 サブタイトルを計画名にして、正式計画名称をその下にいれることも考えている。通称が良い意味で一人歩きしてくれたら良い。
- 委員 新計画の配布予定やボリュームはどの程度か。
- 事務局 本編を概要版程そぎ落とすと内容がわからなくなるので、そうならない程度に短めの本編を一般配布し、興味のある人に次の段階に読んでもらえるよう本編、資料編、行動編の3冊セットの作成を検討している。計画内容がある程度見えた段階で決めたい。
- 委員 概要版より少し多い16頁程の量の本編を、計画の結論として最初に示す形が良い。その他、資料編20頁と行動計画で、全部合わせれば現行計画と同じ50頁程度になる。読む人の理解の順番を考え、取組みから説明する組立て方もある。
- 委員 行動計画の策定期間はいつか。
- 事務局 来年度を予定している。
- 委員 市民の大多数が本編を見ることを前提にするのは無理がある。自分のやりたい事が記載された手軽なパンフレットを見る事がきっかけとなり、緑の基本計画に触れるのが一般的だ。本編全体は市役所やステークホルダーの人たちが読むものであり、その価値がある事が必要だ。本編全体を一般市民の大多数が見る事を前提にすると、生物多様性の配慮やグリーンインフラ等の問題が薄くなることを懸念する。
- 委員 10年間の実施内容を計画で先に決めるとそれに縛られてしまう。方向性の曖昧さ、具体性をどこまで示すかは悩むところだ。
- 委員 アメリカの計画はコミュニティプロジェクトで取り組む協働型で、行政はポリシーとこれを支えるガイドラインをつくる「ポリシー&ガイドライン」の形だ。その場合、計画策定後のコミュニティプロジェクトを想定し、そのサポートの為の計画をつくる。難しく新しい取組なのでそこまで進めるか心配だがチャレンジしたらよい。
- 事務局 行動計画は5年で前半後半に分け、前半部分を具体的に示すイメージをしている。
- 委員 尼崎で何を次の5年間でやれば、その次の5年間に新しいことにチャレンジできるのかを考える必要がある。

- 委員 「ひと咲きまち咲きあまがさき」いう総合計画のキャッチフレーズはとても良いのでこれに倣い緑の基本計画で何かうまく表現できないか。最後にひらがなで「あまがさき」と使われているのが良く、そこを工夫したキャッチフレーズになれば良い。
- 委員 次期計画では緑のまちづくりに関する取組を中心に考えているようだが、緑のネットワークやエリア別の話はどう考えているのか。
- 事務局 緑のネットワーク化と地域計画は大切なので、その2点は必ず本編に入れる必要がある。一般的には地域計画は現計画を踏襲するものだが、現計画の地区計画は鉄道沿線で3地区に分けているため東西に細長くなり、同じ地区でも東西で地域性が違うという課題がある。そのため次計画の地域の分け方は検討中だ。
- 事務局 地域計画の作成は改定作業中の都市計画マスタープランや立地適正化計画を踏まえ、駅前と郊外の位置づけの違いを示す等、他の市の計画と連動させる必要がある。
- 委員 現計画の検証は、次回専門部会の骨子案に少し織り込む程度でまとめると良い。
- 委員 国交省の方針が公園を均等配置することから、公園で求められる機会を均等配置するという考え方に変わった。国交省の考え方を分かりやすく計画の冒頭で示すと良い。
- 委員 緑のまちづくりをやりたい人に対し、職員がメニューを提示し応援できる事が重要。環境や住環境、防災等の地域における配慮事項をクリアできれば、市民等が公園で様々な利活用ができるよう利活用のハードルを下げられると良い。地域で合意できれば、公園で地域の子ども食堂で提供する野菜を育てても良い等の応援の仕方もある。
- 委員 前計画と同様に次期計画の方針も、市総合計画の方針を活用した整理もできる。
- 事務局 次期計画は、総合計画の方針をキーワードにして構成した。キーワードに対して漏れないよう計画を立てるやり方ではなく、皆がやりたいことを先に想定し、後から総合計画やSDGsの項目に紐づけしていく計画の立て方になっている。

2) 次期計画の骨子たたき案について

- 委員 施策体系一覧をみると、緑の機能や存在効果等グリーンインフラの内容が薄い。資料3の基本方針「みどりを未来につなぐ」が緑の力で持続可能な社会をつくるという政策になると思うので、緑の存在効果を高める政策例を入れると良い。
- 委員 個別施策に公園以外の運河や農地等の様々な緑に触れないのか疑問だ。
- 事務局 方針1「みどりでまちをつなぐ」の「魅力的な公園づくり」の取組課題に「防災・減災機能の向上」を掲げたが、方針3「みどりを未来へつなぐ」に移動した方がわかりやすい。
- 委員 方針3「みどりを未来へつなぐ」は防災減災だけでなく、ヒートアイランドや生物多様性も含めて持続可能な社会に関する項目として整理するのが良い。
- 委員 健康やアクセシビリティ等も踏まえた公園が求められている。適切な公園配置と必要な機能を見定め、取組みを示した方が良い。変動の大きい時代であり、どの機能をどうするかは書かず、5年毎に見極め行動計画で示すと良い。SDGsも今は関連づけが必要だが将来的な位置づけは不透明だ。

- 委員 グリーンインフラとは、単に気温を下げるだけが目的ではなく、そこを使って何かやりたくなるような場所ができるという余地がたくさんあることにつながる。媒体効果が生まれる余地があることを目標の一つにし、計画に余白となる部分を入れても良い。
- 委員 公園や街路樹に対する市民の愛着を深めることで、市民の苦情数を減らすことを「陰の目標」にしてはどうか。地域で苦情数を公開し、地域で解決してもらうことを目指すといったことだ。
- 委員 苦情レベルから地域で共有し、まちづくりの素地をつくることも方針3の「みどりを未来へつなぐ」に入る。
- 事務局 本来、市がやるべき事でできていない事は苦情とは言えない。苦情の線引きが難しい。
- 委員 スマホ等で写真撮影し公園課題を報告できるシステムを導入すれば、公園清掃等の市民の前向きな参加意欲につながる。取組予定があれば政策体系に入れたら良い。
- 委員 個別施策「街路樹のあり方」の取組課題「景観・地域性の確保」はということか。
- 事務局 街路樹は地域の景観や街並みを作っており、地域毎にあり方を検討したいと考えている。
- 委員 資料2 たたき案のビジョンに「これまで培ってきた緑を未来へ継承していく」とあるが、既存のみどりを残すという事で、つくことは重視しないのか。
- 事務局 取組まないわけではないが、都市公園は開設したら廃止が難しく、今ある公園の有効活用や見直しを進めたい。使われていない公園を見直し、確保している公園を良いものにし、良い公園があることを知ってもらうことを重視したい。
- 委員 もう少し柔軟に使える緑の空間があっても良いのではないかと。立地適正化計画による居住誘導後の余った土地の利活用として、新たなみどりの場所はつくれないか。
- 事務局 尼崎市は余った土地もすぐに別の活用が決まる。
- 委員 狭小地等を暫定的に利用し、都市公園というよりは広場のような場所の検討をしてみてもどうか。農政部局が担当すべきことだが、生産緑地等、小規模でも貸農園や農家レストランはできる。担当課を超え総力戦で取り組んでほしい。また、公園緑地計画と広域緑地計画を繋げる事は重要で河川、土木等との連携も示す必要がある。
- 委員 うまく使えば狭い空間でも健康づくりは十分に出来るが、持久性が要求されるウォーキングやランニングは狭い場所では完結しにくい。河川敷やベイエリア等を活かした連続性のある緑の空間も必要だ。
- 委員 武庫川沿い等、利用ポテンシャルがある場所の普及や、快適な環境をつくるために街路樹で木陰をつくることも重要な視点だ。
- 委員 資料3 施策体系一覧の取組課題には行政がやりたいことのみが示されているが、施策体系からビジョンをつくる計画のつくり方をするなら、市民がやりたいことも含めて整理する必要がある。
- 事務局 次の部会までに、庁内若手のワーキング会議や市民アンケート結果を反映のする予定だ。

- 委員 まちづくり等のつきあいのある商店や事業者、関係する部局の職員等から話を聞いたら良い。協働を住民というイメージで縛らない方が良い。民間の取組によりクリアできる問題もある。民間ノウハウの活用はPFIだけではない。
- 委員 資料3施策体系一覧表「みどりでひとをつなぐ」の個別施策に「イベントの充実」と「情報発信の充実」があることについて抵抗がある。重要なのは「イベントの充実」ではなく、イベントを充実させることができる人をつくること。また、「情報発信の充実」についても、市民のネットワークで情報発信が活性化される基盤をつくることを市役所の施策として策定すべきだ。
- 事務局 「イベントの充実」の個別施策は、ボランティアリーダーや表彰制度等の人づくりを想定しているが、言葉の選択が良くないので訂正する。
- 委員 資料3個別施策の「魅力的な公園づくり」の取組課題として適正管理を掲げると、苦情の先は市役所と受け止められる。
- 委員 庁内から意見を聞きまとめるのではなく、一緒にプロジェクトを考える事が必要だ。
- 委員 マスタープラン型ではなく、協働型の計画をつくるのであれば、市役所でやってきたことをどうやって人に任せるかが重要だ。協働のために何をすべきかを考える必要がある。次回会議で提示される資料は今回示された、資料1骨格検討、資料2計画の骨子、資料3施策体系一覧の一式をバージョンアップする予定か。
- 事務局 何をするか見えてこない決めにくい段階だ。資料2計画の骨子、資料3施策体系一覧をバージョンアップしたい。
- 事務局 まとめ方や見栄え等のイメージも含め、次期計画の参考になるものを教えて欲しい。
- 委員 自分たちが関わる緑を断面図にして差し込むのはどうか。尼崎市より小さい規模の都市だが屋上緑化や街路樹、住宅、鳥、イベント等、人のスケールで街の断面図にまとめ示した事例がアメリカにある。
- 委員 浜松市の緑の基本計画が「この指とまれ」と掲げ、支援政策を盛り込む計画になっている。みどり生活を楽しむ暮らしのまち等、生活のイメージが書かれておりわかりやすく良い。
- 委員 計画本文の冒頭では、尼崎市には様々な人が住み、様々な意見があり、その課題を緑で解決できることを漫画のような絵で示す等、わかりやすい見せ方を目指すと良い。最初のページで緑について示し、最後にプロジェクトの成果がわかるよう同じ絵をバージョンアップして示す。
- 委員 尼崎市で民間地の活用を考えたとき、期間を限定した上で住宅跡地等の狭小地や工場地等が考えられる。人材豊富な尼崎市らしい制度ができるはず。
- 事務局 尼崎市は全国的に先駆け、条例で大きな工場の緑化に取り組んだ経緯があり、今も継続している基盤がある。
- 委員 尼崎市内の工場には年に数日、お花見の場所として、一般開放している取組みもある。校庭の一般開放のように、期間限定、曜日限定、時間限定で開放し使い分ける等、公園以外の土地で公園機能を重層化する事は、土地の少ない尼崎市らしいやり方ではないか。
- 委員 資料1骨格検討のキーワード「スクラップアンドビルド」はどういう意味か。

- 事務局 細かい箇所での施設更新を想定している。更新の際、今ある施設をベースにするのではなく、違う機能を持たせ更新したいという意図だ。行政が提供するだけでなく地域の人と一緒に考え、作り替えていきたい。
- 委員 課題のある公園をリノベーションし、その他の公園は、経費を抑え機能を再配置するメリハリをつけた取組みは良い。尼崎市の公園は樹木が茂り見通しが悪い公園が多い事も課題だ。
- 事務局 尼崎は、工場地帯にあり山が無いため、緑化に力を入れてきた経緯がある。公園を増やすことにも力を入れた結果、接道部が一面のみ等、立地に課題を持つ公園もあるが、代わりに公園数が多いのが尼崎市の特徴であると考えている。
- 委員 街路樹の管理のポリシーを変えるべきだ。樹木間隔を最大化し、遠くから見えるよう大きく木を育てて、木陰もつくるという整備に変える事で狭い場所に空間を創出し、見通しも良くなり安全になるといった相乗効果が期待できる。

以 上